

第四十九句会 俳句

【高点句】

- ☆登り来て最後のカーブ初紅葉 〈青蛙〉
- ☆式部の実祖母の遺せし名古屋帯 〈郁代〉
- ☆薄紅葉白洲書斎の格子窓 〈一馬〉
- ☆熟し柿落ちて来さうな門に入る 〈一馬〉
- ☆父逝きて故郷ひとつ消えし秋 〈茂〉

【各自一句】

- ・秋冷の瀬戸望む墓壺納む 〈茂〉
- ・銀杏の翡翠が主役茶碗蒸し 〈眞澄〉
- ・戦中の画家の自画像眼（まなこ）冷ゆ 〈明美〉
- ・栗を剥く我が手の母に似てきたる 〈千恵〉
- ・ひやひやと中指に星の入れ墨 〈莫院〉
- ・運動会よそみしながら走る孫 〈緑〉
- ・秋冷の歩道の犬のとぼとぼと 〈安津子〉
- ・冷やかや白濁の湯に肌隠す 〈青蛙〉
- ・種採りて空色と記す包み紙 〈郁代〉
- ・秋晴れや孫と戯れ砂だらけ 〈雄記〉
- ・二輪咲く公家の跡地の彼岸花 〈伸子〉
- ・天高し十字架きれば鐘の音 〈童心〉
- ・冷やかや星座を追って夜の更けて 〈一馬〉

*以上、39句（3句ずつ13名）より、選句は16名により4句ずつ

*高点句は、高得点の句より3句（今回は第2位が同点で4句）

*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による（得点順ではなく、俳句一覧表に偶然記載された順に掲載）